

(2) 子どもの心の診療ネットワーク事業の目的

→ 正確な診断を待たずに、子どもの特性に基づいた支援を一般化することを目指す

一般の医療機関

発達障害に早期に気付く

- ・ 普段から子どもを知る立場で、保護者との関係を構築する
- ・ 地域のリソースを把握し、**早期支援へと繋ぐ**役割



毎日、夜中や早朝に覚醒して困ってます
かんしゃくが激しい時どうしたらよいか分からなくて
他の子と一緒に遊ばないし、皆と同じことができない...



医療連携パス

〇〇町の保健師さんに相談してみませんか
〇〇病院の〇〇先生は発達の相談をされていますよ
紹介しましょうか

患者さんの流れ

パターン

① ② ③

診療医療機関

特性の段階で対応を示す

- ・ 診察により発達障害**特性の当たり**を付ける
- ・ 保護者と一緒に、子どもの特性、困ったときの対応や関わり方の工夫を考える役割

待機1か月



かんしゃくが激しいときの状況は？
少し感覚の過敏が認められるかもしれませんね
こんな工夫をしてみましょう
診断が必要になるときは〇〇を紹介しますよ

保健師等による
個別支援

医師の助言による
日常での対応や工夫等

専門医療機関

診断に基づき支援の道筋を示す

- ・ 発達障害の鑑別診断をする
- ・ 保護者、子ども本人が特性を自覚し、本人なりの社会参加が出来るよう**支援の道筋を示す**役割



〇〇と診断されました
本人の成長発達のイメージを保育園や学校
と共有しましょう、本人にも困ったときの
対処法を教えていきましょう

診断結果に基づ
く環境設定や支
援、薬物療法等

point①

発達障害児に対する支援の道筋

本人、保護者が

- ・ 特性を理解する
- ・ 困ったときの対処法を習得する
- ・ 地域の福祉リソースを理解する

point②

発達障害の診断の留意点

- ・ 発達障害の診断は一つではなく併存することが多い
- ・ 神経系疾患、難聴、虐待による愛着障害等との識別が非常に重要